
視線

彩月空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

視線

【コード】

N9055F

【作者名】

彩月空

【あらすじ】

視線に込められた力。それはとても強く、怖ろしい。そんな些細な話。

嫌な汗が噴出した。

異様な圧迫感。激しく波打つ鼓動。地の底から這い出てくる緊張感。

その理由を、私はすぐに知る。

視線だ。視線がある。

誰かがじっと私を見つめている。

いつたい誰だ。

私は首を動かさず、視線の主を捜す。

しかし、それらしき人は見つからない。

見つからないが、視線を感じる。

最も不気味な感覚だ。

視線はいつも付きまとう。

喫茶店でコーヒーを飲んでいても、図書館でめぼしい本を物色していても、公園で散歩をしていても……。

どこかで私を見つめている。

そして、とうとう家においても視線を感じるようになった。

ここまでくると、これはもはや恐怖の対象だ。

私は捜す。

必死に捜す。

視線の主を、私は探す。

あれだ。

見つけた。

あの女だ。

帽子を深く被っているが、その視線は私に向かう。

どうしたことが。

私に何か恨みでもあるのだろうか。

それほどまでに強い力が私に迫る。

とにかく私は逃げ出した。

その視線の届かない場所に。

しかし、逃げても逃げても視線は消えない。

どこまでもどこまでも、私の身体に突き刺さる。

鋭利な刃物のような視線が私に突き刺さる。

あ、と思ったときには遅かった。

私はどうやら足を踏み外したらしい。
階段を転がり落ちながら私は見た。

あの女の瞳を。

感情の見えない、どこまでも冷たい瞳を。

そして、彼女が笑った。

ああ。私は殺されたのだ。

彼女の視線に。

~~~~~

さっと身を隠した。

異様な圧迫感。激しく波打つ鼓動。地の底から這い出てくる緊張感。  
その理由を、あたしはすでに知っている。

彼だ。彼が居る。

あたしはじつと彼を見つめている。

彼は首を動かし、誰かを捜す。

熱っぽく見つめていることに気づかれたのかと思い、あたしは慌てて身を隠した。

彼からあたしは見えないが、あたしからは彼が見える。

最も素敵な光景だ。

あたしはいつも付きまとう。

喫茶店でコーヒーを飲んでいる彼。

図書館でめばしい本を物色している彼。

公園で散歩をしている彼……。

どこでも彼を見つめている。

そして、とうとう家まで追いかけるようになった。

ここまでくると、これはもはやストーカーだ。

でもあたしはそれに気づかない。

自分がストーカーだなんて思わない。

これはただ、純粹な愛の形に過ぎない。

そして、見つめるだけでは物足りなくなつた。

だから、わざと彼に見つかった。  
姿を見せた。

お気に入りの帽子を被って、あたしは彼に顔を見せに行く。

それなのに、どうしたことだろう。

彼は何かおぞましいものを見たかのように顔をゆがめた。  
あたしはその理由が知りたくて、彼をじっと見つめる。

すると、突然彼が駆け出した。

これは、まずい。  
見失ってはいけない。

せっかく決心したのだ。

あたしは今日、彼に会う。  
だから、どこまでもどこまでも、彼を追い続ける。

細い道を縫うようにかけ、彼は段差の急な階段に足を踏み入れた。

あ、と思ったときには遅かった。  
彼はどうやら足を踏み外したらしい。  
階段を転がり落ちる彼を見た。

ようやくあたしたちの視線が交わった。

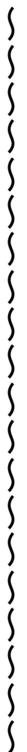
彼の瞳が、あたしの瞳にぶつかる。

そして、あたしは笑った。

彼の脳裏に永遠に焼きつくように、あたしは精一杯の笑顔を向けた。

あたしは愛を伝えたのだ。

この視線で彼を射止めたのだ。



上から下まで転がり落ちた彼は、ぴくりとも動かなかった。

あたしは彼に寄り添い、そして。

背後からの視線に身体を震わせた。

誰だろう。

あたしは振り向く。

そこに姿はない。

けれど、確かに視線を感じる。

嫌な汗が噴出した。

異様な圧迫感。激しく波打つ鼓動。地の底から這い出てくる緊張感。

視線があたしに突き刺さる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9055f/>

---

視線

2010年12月23日14時21分発行